

1・2年生



『アレハンドロの大旅行』



イノシシのアレハンドロは、なにも話さない、おとなしい子どもでした。しんぱいしたおとうさんとおかあさんは、「ひとりで、あの丘のちょうじょうまでいかせれば、話せるようになる」ときいて、丘へいかせることにします。さあ、アレハンドロの大旅行がはじまります。どんなことがおこるのでしょうか。

きたむら えり／さく・え
ふくいんかんしよてん
福音館書店



3・4年生

『いのしし』



まえかわ たかゆき しんぶん ぶん
前川 貴行／写真・文
アリス館

からだにしまもようのあるいのししのあかちゃんは「ウリ坊」とよばれます。ウリ坊は、いつもわらったような顔をして元気いっぱい。けれど1、2年もすれば、親いのししのように、つよ強くあらあらしくなります。長くて大きい鼻にも、どろの中でねることに、それぞれに生きるためのひみつがかかれています。山でくらすいのししのすがたが、ちからつよえがかれた写真絵本です。

5・6年生

『シロクマが家にやってきた!』



マリア・ファラー／作
ダニエル・リエリー／絵
すぎもと 詠美／訳
あかね書房

サッカーが大好きなアーサーにはしよう害のある第1がいます。第1のことは理解していますが、第1ばかり優先する両親にたえられず、家出を決意します。ところが、玄関を出たらそこにはシロクマが! シロクマのスーツケースには、「ミスターP」という名前とアーサーの家の住所がかかれたタグがついています。一体どこから、何のためにやってきたのでしょうか。



『おさかないちば』



かとう やす たく
加藤 休ミ／作
こうだんしゃ
講談社

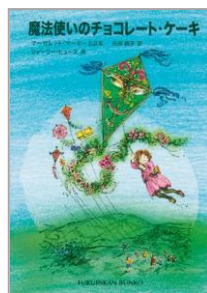
まだ空がくらいあさ早くに、男の子はいちばへいきました。にぎやかないちばの中には、さかながいっぱい。はねるエビ、もそもそごく貝、ともだちのかおににているさかな。大きなかおに、つやつやしたうろこのプリは、えほんからとびでてきそうです。いっしょにいちばの中をあるいているようなきぶんになりますよ。



『魔法使いのチョコレート・ケーキ』



マーガレット・マーヒーお話し集



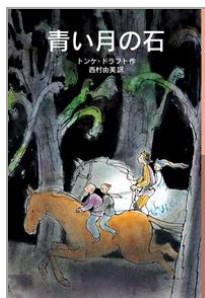
マーガレット・マーヒー／著
いしい ももこ やく
石井 桃子／訳

シャーリー・ヒューズ／画
ふくいんかんしよてん
福音館書店

あるところに、すばらしいチョコレート・ケーキを作る、よい魔法使いがいました。ところがまわりの人からは、わるい魔法使いだと思われていたので、せっかくおいしいケーキを作ってもだれも食べにきてくれません。さびしい魔法使いはどうしたでしょう。お話を読むとチョコレート・ケーキが食べたくなりますよ。8つのお話しと2つの詩が入った短ぺん集です。



『靑い月の石』



トンケ・ドラフト／作
にしむら ゆみ やく
西村 由美／訳
いわなみしよてん
岩波書店

「どこから来たの? マホッフ、マホッフ、マホッヘルチェ。」子どもたちが校庭で遊んでいると、このオランダの古いあそび歌につられるように、地下の王国から不気味な人物が現れます。ヨーストと友達のヤンは、勇気を出してその足あとを追っていくのですが…。靑い月が出たその時から、地上と地下の世界を行き来する冒険が始まります。